

タイトル「しーちゃんの船出」

作家名 古川登志夫

ページ番号 20ページ

◎プロローグ

牧野

(M) 三十年も勤めた出版社が、まさかの倒産！
この歳になっての就活が、どれだけ困難か予想はしていたが、これほどとは！来る日も来る日も職探し。
あの日も俺は、大都会の摩天楼の足下に広がる大きな公園の片隅のベンチに腰掛けて、名刺の束を手に、片っぱしから電話をまくっていました。

◎大都会の公園

午前

SE (春の朝。野鳥の声。車のクラクションなど)

牧野

……………一応パソコンは扱えます……………いや、ワードだけですけどはい……………そうです……………ああ、そうですか、有り難うございました。失礼します。

(M) 電話を切つてふと見ると、ホームレスらしきおばあちゃん
が、箒とチリトリを持って、俺の座っているベンチの下を掃き掃除している。

静子

足上げて……………座ったままでいいから、両足上げて……………はい、
ありがとう！いいお天気ね。

牧野

俺のせいじゃないよ。

静子 この吸い殻はあなたのせいでしょ!? はい持って帰って。

牧野 汚いなあ! あっちへ行きなよ!

静子 あんた私をホームレスかなんかと思っただかバカにしてん
よ!

牧野 ……違うの?

静子 いや、そうだけどき、ハハハ。よく分かったわね! でもね、私は
普通のホームレスじゃないのよ。ほら、ニオイ嗅いでみて!

牧野 さあて会社に遅刻しちゃう! またね、おばちゃん!

静子 おばあちゃんではない! 私はまだおばちゃんなの! ははは。ま
あ、もうちょっとつきあいなさいよ、どうせ行くところ無いんでし
よ、会社、倒産しちゃったし。

牧野 え?

静子 あんたこのベンチに腰掛けてよく電話してるでしょ、全部聴こえ
ちゃうのよ。その茂みの向こっかだから私ん家。

牧野 盗み聴きかよ! 家って、テント?

静子 いいえ、紙と木で出来た日本の家屋。ちょっと変わった形してる
けどね。うち来る?

牧野 行かないよ。

静子 あら遠慮深い…そうだ、あんた、おなか空いてんでしょ! あんば
んあげる、はいこれ! 賞味期限、四力月くらい前に切れてるけど。

牧野 要らないよ!

静子 大丈夫よ、おなかこわしてもすぐそこにトイレあるから……ハハハ……冗談よ！さっきそのビニコンでゲットしたの。

牧野 万引きしたの？

静子 そう、店員の目を盗んでササっと……コラ！人聞きの悪いこと言わないでよ。私、本とはね、お金持ちなのよ。車は外車だし、船だって持ってんだから。

牧野 あ、そ……

静子 ねえ、余計なことかもしれないけど、あんた背筋伸ばしたほうがいいわ、そして、深呼吸して、ニコッと笑ってみるの、するとね、世の中、パーっと明るく見えて来るから、はい！牧野さん！「一緒に〜！」

牧野 なんて俺の名前知ってるの！

静子 だから言ったでしょ、電話よ！壁に耳あり、障子に目あり、便器の下に盗聴器ってね！毎日のようにこのベンチに座って、大きな声で「もしもし牧野ですが」って……下の名前はなんて言うの？

牧野 他人（ひと）に名前を訊く時は自分が先に名乗れよ。

静子 姓は湊、名は静子、覚え易いでしょ、静かな湊で、湊静子……で、あんたの下の名前は？

牧野 あるよ。

静子 言いたくなければ無理に訊かないわ、牧野義哉（よしや）さん！知ってるし！

静子 「もしもし、牧野です、牧野義哉と申します。牧場（まきば）の牧に、野原の野で牧野、正義の義に、志賀直哉の哉と書いて、善哉です」

牧野 盗聴器婆ア！

静子 あら、口が悪い。いい名前よね、牧野善哉！ちょっと堅いけど！
そうだ！まーちゃんにしない？牧野だから、まーちゃん！

牧野 ま、まーちゃん？

静子 元氣出しなさいよ、まーちゃん！今からいいことが起こるから。
職を失った一人の男が、一本の電話をキツカケに明るい人生を取り戻す……ええ話やなあ。はい！いい電話よ、かかって来い！と。

SE (スマホの着信音)

静子 こないだの真田さんだな。

牧野 もしもし……ああ、真田？この間は有り難うね……うん……まじ
ハローワークかなあ、なんて思っ……え、今から？……いやいや
や大丈夫だよ……すぐそっちへ行くよ……ああ、あの喫茶店ね
……昼頃？……オッケー……ありがと……うん、のちほど！

静子 いいことあったのね！

牧野 ああ……あったあった！

静子 じゃあ行った行った！ヤマト、発進……！

牧野 ヤマト？

静子 仕事決まって良かったわね。

牧野 まだ決まったわけじゃないよ。

静子 決まるわよ！またね……！

牧野 もう会わないと思うけど元気でね、おばちゃん！バイバイ！

静子 あ、ちょっとまーちゃん！……行っちゃった……又会うわよ……必ずここへ帰ってくると、手を振る人に笑顔で応え……ライター、ベンチに置きっぱなしのもの……フフ、結構そそっかしいわね、まーちゃん……

牧野 (M) 潰れた出版社で同僚だった真田は、うまいこと、すぐに似たような出版社に潜り込んだとかで、その会社の仕事を回してくれるという。今売れまくっている青木ヶ原樹海潜入ルポのようなルポルターージュを早急に一本やつつけてくれないか、とのことだった。渡りに船、もともと雑文書き、しかも得手なジャンルだ。題材は「女ホームレス」。とっさの思いつきだが、真田は「それで行こう！」と即決した。こうして拍子抜けするほど、あっさり当座の仕事が決った。今までの苦労は何だったんだ。条件も悪くない。勝算はある！一通りの話が済んで、ほっと一息、タバコに火を点けようとポケットを探ると、ライターが無い……

◎大都会の公園 夕刻

SE (同日午後。車のクラクションなど)

牧野 たしか、このベンチだったよなあ……

静子 まーちゃん！はいコレ！預かっておいてあげたわ、

牧野 ああ、おばちゃん、ありがと、よかった、このライターお気に入りでさ。

静子 ……仕事、決まったのね。

牧野 え？ああ、まあね！……

静子 おめでとう、まーちゃん！

牧野 まーちゃんにされちゃったよ。

静子 あら気に入らなかった？

牧野 いや、いいよまーちゃんでもなんでも。……ところで、おばちゃんさあ……まるで占い師か予言者みたいだなあ。

静子 よく言われるわ。私には先のことなんでも分かるの。この公園でまーちゃんとお会いすることも、今日まーちゃんの就職が決まることも！そしてその会社が小さな出版社であることも……

牧野 わ、すげ！

静子 今から私が言うことは全部その通りになるわ、まず今日から私とまーちゃんのおつきあいが始まる……

牧野 へえ。

静子 あら、冗談じゃないのよ！そしてそのおつきあいはね、1ヶ月後に突然終局を迎える。

牧野 なんだいそりゃ。そういや、今朝俺と別れるとき「ヤマト発進！……！」て、言ったよな！

静子 ああ、言った言った！私大好きだったの、「宇宙戦艦ヤマト」ってアニメ！

牧野 え、おばちゃんが？

静子 若い頃「宇宙戦艦ヤマトファンクラブ」なんてのに入っちゃってさ。

牧野 ええ！俺も入ってたよ！ヤマト漬けてくらい大好きでさ……ヤマトねえ……なにもかも懐かしい！俺も一時夢中になったなあ……

静子 一時って？今は？

牧野 アニメなんてとうの昔に卒業……もう、全然観たくもない。

静子 あら、ダメよ！なんで、どしてよ！

牧野 おばちゃん、アニオタなの？

静子 その前に船フェチ！あらゆる乗り物の中で船が一番好き！そこからヤマトにずるずると……あんたは？

牧野 そうね、地球滅亡まであと何日！地球を救うというあの堅固な使命感、犠牲的精神！に惹かれたのかな……

静子 それなのに、なんで卒業なの？理由は？

牧野 アニメには、リアリティーがない……

静子 たとえばどんなところ？

牧野 デスラーの顔の色とかさ

静子 あつら、バカだバカだこの人！きれいなブルーじゃないのよ！

牧野 なんでデスラーの顔はあんなに青いのよ？

静子 あんた、肌の色で人を差別するのはよくないわ！

牧野 どうして青いのか、説得力のある科学的理（ことわ）りがなきや、いくらアニメでもただの絵空事じゃね！

静子 肌の色にこだわるなんて、アパルトヘイトだわ！

牧野 ハハ、たかがアニメの話じゃない。

静子 たかが？ダメだ、まーちゃん！夢が無さすぎ！ヤマトに戻りなさい！今すぐ戻りなさい！今夜レンタルビデオ店で「ヤマトよ永遠に」を借りて観なさい！これは艦長命令です！

牧野 艦長……沖田十三ねえ、確かにかっこよかったなあ……

静子 あんたまだ見込みあるわ！はい私が千円上げるから、レンタルビデオ店へゴー！

牧野 金ならおばちゃんより持ってるよ。

静子 そうかなそうかな？

牧野 はいはい。財閥のご令嬢ってやつ？

静子 やあねえ、誰も何も信用してくれない……

牧野 家は田園調布で……

静子 あら！どして分かったのかしら？

牧野 車は外車で……訳あって今はホームレス……それが本とだったら話は面白んだけどねえ……

静子 本とだってば！

牧野 それよりおばちゃん！俺と茶飲み友達になっくんない？

静子 あらまナンパ？嬉しい！いいねいいね、新たなロマンスの始まり、春の目覚め！

牧野 違うって！あれ、おばちゃんいい匂いすんね。

静子 パヒュームにすると百合って、きついんだけど、これ幽かに香る程度に調合されてて好きなの。田園調布に在ったお家のお庭には毎年同じ場所に白い百合がたくさん咲く場所があっつねえ。

牧野 在ったお家って？今は？

静子 訳あって、処分したのきれいさっぱり！下手に財産なんか持っ

てると、親族間の揉め事のタネになるだけだから。全部寄附しちゃったわ。

牧野 どころかで聞いたような話だなあ。

静子 あらま、疑い深い人ね！

牧野 で、友達とかはいるの？

静子 私はまだここに来て五ヶ月の新参者だけど、すぐお友達出来たわ。

牧野 女性？

静子 男性……ここでは女は私だけ。

牧野 へえ。友達ってどんな人？

静子 いろいろよくしてくれる、いい人よ。私のガードマン。酔っぱらいなんで、酒造さん、てあだ名付けてやったわ！

牧野 佐渡酒造かい？ハハなんでもヤマトか。

静子 本名なんか誰も言わないしね、ここではさ。

牧野 だろうねえ。……

静子 ね、まーちゃん、今からウチにこない？すぐそのやぶの向こうつかただから。お茶くらい出すからさ。茶飲み友達！

牧野 いやいや……また今度ね……

(M) もう少し話を聞きたいところだが、二人で居るところに、その酒造さんとやらに踏み込まれても面倒だ。今日の所はこれくらいにしておこう。あまり性急にしても怪しまれる。与えられた時間は二ヶ月。写真をふんだんに散りばめた薄手のルポルタージ

ユ一本仕上げるには、充分な時間だ。焦ることはない。

M (時間経過、ジングル)

◎大都会の公園

午後

牧野

(M) 翌日の午後も、フラッと公園に寄ってみることにした。今日こそ豪邸訪問と行くか………

静子

ようこそ我が家へ〜！ジャ〜ン！

牧野

(M) おばちゃんが馴れた手つきでそのブルーシートを剥がすと、なんと児童公園なんか置いてある遊具の様な、丸っこい形のダンボールの船が姿を現した！いやベニヤか？よく出来ている。船体の側面に大きくヤマトと書いてある。ヤマトのタイトルロゴを真似たか……

わ、おばちゃん、ナニコレ〜！

静子

だから言ったでしょ、船も持ってるって！私のお家、宇宙戦艦ヤマトハウス！結構中広いのよ、さ、入って入って！

牧野

うわ！これおばちゃん、自分で作ったの！

静子

まさか。酒造さんに作って貰ったの、元大工さんなんだって。器用なもんよねえ。

牧野

中見せてもらっていい？失礼します……わ、骨格に樽木なんか使ってる！金具まで使ってるよ！金かかってんねえ。

静子

お金持ちだからホラ！ちゃんと工賃も払ったのよ。

牧野

花瓶に白い百合まで飾ってある……へ〜！いい香り。

静子　ほんものの百合よ。コーヒーでいい！お砂糖は……

牧野　要らない。

(M) 大きな魔法瓶からコーヒーを注いでいる。しかも紙コップではなく、古代進と森雪の描かれたマグカップだ。

静子　はい、どうぞ。

牧野　おお、このマグカップ……

静子　家にあったの持ってきたのよ、いいでしょ！……コーヒーのお味はいかが？ブルマンブレンドよ……

牧野　ブルマンブレンド……！（啜って）旨い！おばちゃん！これ、どしたのこのコーヒー？

静子　道路挟んだお向かいのカフェで、毎朝魔法瓶に詰めてもらうの。

牧野　毎朝？驚いたねえ……てか驚くことばかりだけど……で、時々酒造さんとコーヒーマイクとしゃれ込むわけ？

静子　たまにね。

牧野　酒造さん、今日はどうしてんの？

静子　さあね、人から干渉されんのが余り好きじゃない気まぐれな人だから。

牧野　その人もこんな凝った家に住んでるの？

静子　酒造さんはリアカーに寝泊まりしてんのよ。

牧野　へえ……ね、おばちゃん！俺と二人でいるとこ酒造さんに見られたらヤバいんじゃないの？

静子 ぜんっぜん！そんな人じゃないから。たぶん空き缶集めに遠くまで遠征してるのよ。暗くなれば自然に帰ってくるわ。

牧野 へえ。しかし、手間暇かけてわざわざ船の形にねえ。普通テントか、ダンボールで四角く囲ってガムテープで止めた程度でしょう。

静子 船が好きなの。あ、まーちゃん、タベ「ヤマトよ永遠に」観た？

牧野 あ、忘れた！

静子 ……まーちゃん、あんた、なにか、大事なものを、ある時どこかに置き忘れて来ちゃったのかも知れないわねえ……ライターみたいに……

牧野 何か大事なもの？

静子 ね、まーちゃん、これ、なんだか分かる？

牧野 これ？オール？ボートを漕ぐ時のオールみたいに見えるけど？

静子 ピンポーン！酒造さんがね、この船のお家を作ってくれた時にプレゼントしてくれたのよ。板を削って作ったオール。船にオールはつきもんだろって（酒造の口調を真似て）「人間が母の体内から生まれ出る瞬間では、荒海に小舟で漕ぎだすようなもんなんだ。だから人間は誰でも神様から貰った目に見えない一本の小さなオールを握って生まれてくるんだ。だけど、たいいていの人は人生の途中でみんなそのオールをどこかに置き忘れてきちゃうんだ」って…こんな話、今のまーちゃんには、何の興味もないわね

牧野 いや、おばちゃん！その話、面白いね……

静子 じゃ、続き…「名前だって偶然じゃない。あんたはよく頑張って、人生の荒波を乗り越えてきた。だから人生の最後を迎えるに当たって、ちゃんと自分の見えないオールで漕いで、ここにたどり着いたんだ、静かな湊で安ろうために」って言ってたわ。

牧野 酒造さんにも会ってみたくなくなったなあ。今日はこれで失礼するけど、そのうち紹介してよ。

静子 いいわよいつでも。

牧野 明後日辺りまた寄るよ……

静子 あら、嬉しい！

牧野 またね、おばちゃん！

静子 あら、ほんとにもう帰っちゃうの？ねえ、まーちゃん、一つお願いがあるんだけど。

牧野 なに？

静子 私のこと、おばちゃんて呼ぶのやめてくれる？

牧野 あそ、じゃなんて呼べばいい？

静子 しーちゃん、静子だから、しーちゃん！

牧野 了解！じゃまたね、しーちゃん！

静子 あら、嬉しい！ちよつとまーちゃん、そうやって敬礼すると、どこことなく古代進みたいでかっこいいわ。

牧野 ハハ、じゃね！ヤマト発進！

静子 今夜絶対観るのよ「ヤマトよ永遠に」、絶対よー！約束よー！

牧野 ああ、分かってるよ！

◎牧野の部屋

牧野

(M) その夜、二十年ぶりに、レンタルビデオ店でヤマトを借りて、観直してみた。部屋を暗くし、ヘッドフォンを頭にかけて

M (「宇宙戦艦ヤマト」)

(M) ヤマトは、少しも古びていなかった！それどころか、初めてヤマトを観た時の様に感動し、涙を流している自分に、我ながら驚いた。そう、中学生だったあの頃のように。

(M) 不思議だ……あんなに気になっていたデスラーの顔の色も、気にならない。子供達だけじゃない！いい大人達が何故漫画やアニメに夢中になる！人々は虚心に、SF映画やドラマを楽しみ感動している。……久しぶりにヤマトが俺の元へ帰ってきた！そんな感じでした。船が空を飛ぶ！ヤマトよ永遠に！……どこかに忘れてきた……オールか……。

◎大都会の公園

午前

SE (同日午後。車のクラクションなど)

牧野

(M) ニ、三日してまた公園に出かけてみると、しーちゃんはヤマトハウスで横になっていた。

牧野

しーちゃん、こんちわ〜！

静子

あら、まーちゃん、いらっしやい！とんでもないとこ見られちゃったわね。

牧野

気にしない気にしない。へえ、寝るときパジャマに着替えるんだ？

静子

ああこれ？昨日酒造さんがプレゼントしてくれたの。お金払うって言っても、絶対受け取らないのよ。

牧野

へえ、驚いたな。

(M) 俺は一瞬、どれだけの空き缶を集めたら。パジャマが買えるんだろうと思った。

牧野 ああそうだ、昨日コーヒー「ごちそうになったから、これお返し、はい、あんぱん、賞味期限二週間ばかり過ぎてるけどね……

静子 アハハ……有り難う。嬉しいわ。

牧野 しーちゃん、なんだか顔色良くないね、デスラーほどじゃないけど。具合でも悪いの？

静子 なんだか朝から体がだるくってさ……でも平気、今コーヒー入れるわ。

牧野 しーちゃん、俺ね「ヤマトよ永遠に」観たよ！

静子 あら、ほんと！嬉しい！で、どうだった！

牧野 しーちゃん、有り難う。ヤマト……なんて言ったらいいかな、ヤマトねえ、帰ってきたよ、俺のところに！

静子 でしょでしょ！なんて嬉しいんですよ！有り難うまーちゃん！

牧野 いや、お礼を言うのは俺の方だ。有り難う、しーちゃん……。

静子 よかった！今日は見違えるほど明るい顔してるものまーちゃん！

牧野 そう？……しーちゃん、いろいろ、訊いてもいい？

静子 いいわ……私もいつまでここに居られるか分からないし。

牧野 え、強制退去とか？

静子 人間、何時何があるかわからないじゃない……はい、何でも訊いて頂戴。但し一月間は、誰にも内緒よ。

牧野 一ヶ月過ぎたら別の場所に行く気？……

静子 ふふん、それは内緒。早く質問しなよ。

牧野 うん、そもそも、なんでホームレスになったの？

静子 私の場合、残された人生を自分の意志で好きな様に生きたい。
クオリティーオブライフってやつよ……

牧野 難しい言葉知ってんね。……親戚とかどうなってんの？

静子 いるわ。顔観ても分かんないような遠い親戚が少し。みんな経済的には恵まれてるけど、この世のことに窮々としている。もつともあっちから見れば私は人間のくず、結婚はしないし、認知症、へそ曲がり、金の亡者、って、言われ放題。私、お金なんかどうでもいいのに。だから、長年世話になった家政婦さんともお別れし、家も財産も、全て勝手に処分して、蒸発するのにしたの。

牧野 へえ、小説みたいな話だね。ホームレス生活ってたいへんな気がするけど、覚悟しちゃうと、なんとかなっちゃうもんなの？

静子 地球滅亡まであと365日。私の滅亡まであと〇〇日！

牧野 え？

静子 私ね…死ぬためにここに来たの。心残り何も無し！

牧野 へえ、先長そうだけど………ついに住処が公園で、淋しくない？

静子 ない。そうねえ……死ぬ前にもう一度海を見たいかなあ。半年くらい前に見たのが最後だなあ、ここに来る前……鎌倉の海に一人で出かけたことがあったの。夜になるまでずっと海を見ていたわ……ゆうべ、酒造さんとそんな話してたら「お台場の海くらいな

「リアカーに乗っけて連れてってやれるけど、今から行くか？」
なんて言ってるね……。」

牧野

へえ、優しいねえ……酒造さん早く紹介してよ。

静子

よーし！今夜はまーちゃんのヤマト帰還祝賀パーティーやる！ヤマトハウスで酒盛り！酒造さん帰ってきたら三人でさ！

(M) カップ酒とコンビニでゲットしたやきとり。三人の酒盛りは、それなりに盛り上がった。酒造さんは、大男で一見強面だが実際は柔和な人ですぐにうち解けた。

(M) この日を境に、しーちゃんと酒造さんと俺という奇妙なトライアングルヒューマンリレーションがアップテンポに構築されていった。三人で一緒に過ごす時間も日に長くなり、親しみの度合いを増していった。一週間、二週間、三週間と日が経つ中で、何度か酒盛りをし、空き缶集めを手伝い、ヤマトハウスを修理したりした。そしてそれは、俺にとって、これまでついぞ味わったことのない、満たされた、濃密で不思議な時間だった。潜入ルポ……俺はテント暮らしをしてみること考え始めていた。

(M) どこまでが本当でどこまでが嘘なのか判然とせぬ二人の与太話を整理しては、その裏を取るべく、あちこち取材を進め、真田に進捗状況を報告したりしていた。このヤマにかかって、一ヶ月が過ぎようとしていた。

◎街

SE (街ノイズ)

牧野

(M) ある日、街中で、酒造さんに出くわした。リアカーを引く酒造さんの足取りがおかしい、具合でも悪いのだろうか？後ろから声をかけると、リアカーは止まったものの、酒造さんは何も言わない。前に回って顔を覗き込むと、かなり酔っているようだった。

酒造さん、昼間からご機嫌だねえ。

(M) 酒造さんは怒ったような顔でチラッと俺を見た。そして次の瞬間唇がわなわなと震え出したかと思うと、押し殺したような嗚咽と共に、両目から勢いよく涙があふれ出た！

酒造さん、どうしたの！

(M) 酒造さんは獣が唸るような声で泣きながら、胸のポケットからしわくちやの封筒を取り出し、俺の胸にドンと押し当てた。「酒造さんとまーちゃんへ！」……達筆なしーちゃんからの手紙だった。

M ()

静子

酒造さん、まーちゃん、大変お世話になりました。楽しい時間がありました。またいつかお会いしましょうね。私は、潮が満ちてきたから船出します。一人で行くけど、私は何も淋しくはないわ。私の願いが叶うんですもの。

酒造さんには全てを話したけど、お医者様からあと半年くらいでしようと、白血病の余命宣告を受けたあと、一人で鎌倉の海に出かけた事があったの。夜の鎌倉の海、月明かりでキラキラ光って綺麗な海だった。

私は砂浜にひざまずいて神様をお願いしたの。私が死ぬ時、船で天国へ誘(いざな)ってくださいって。そしたらね、砂浜に置いてあった小船に、空からスーッと一条のまばゆい光が射し、その船がフワッと、空に舞い上がったの。嘘じゃないわ。そして天からの声が聴こえたの。「お前がこの世を去る時、この船に乗って天国に行くだろう……」って。それから「お前の全財産を全て人に施しなさい」って……。だからその通りにしたわ。そしたらまーちゃんと酒造さんに会えた。楽しい半年間だった……有り難う酒造さん……。そしてたった一ヶ月のおつきあいだったけど、有り難うまーちゃん。まーちゃんが、お仕事で私に近づいてきたこと分かっていただけ、ちょっと嬉しかったわこんなおばあちゃん茶飲み友達になってくれて。

酒造さんをお願い、酒造さんが造ってくれた小さなオイルと、田園調布の家で撮った写真のアルバムをまーちゃんに上げて下さい。もしかしたらまーちゃんのお仕事の役に立つかも知れないから。それから酒造さん、ヤマトハウス、良かったら使ってください。最後にもう一度……二人に、心からのありがとうを言わせて下さい。酒造さんありがとう……まーちゃんありがとう……しーちゃんより。

牧野

(M) 手紙はアルバムに挟んで、ヤマトハウスに、オイルと一緒に置いてあったという。酒造さんは、多くを語ろうとしなかったが「船が迎えに来たんだ」と呟やき天を見上げた。酒造さんは、しーちゃんの全てを知っていて、しーちゃんを世話し、看取り、見送ったのかもしれない。リアカーには、平たく折りたたんだヤマトハウスとオイルが乗っていた。それから酒造さんと花屋に行き、白い百合の花を一本買い求め、公園に向かった。

◎エピソード

SE (野鳥の声。車のクラクションなど遠く街ノイズ)

牧野

(M) 俺たちはヤマトハウスのあった場所に白い百合を置いて、手を合わせた……俺はリアカーに積んであったオイルを手に取り一漕ぎしてみた。その瞬間、ふわっと幽かに百合の香りが広がった。酒造さんは、ヤマトハウスの在った場所を見つめ「こんな狭い場所だったんだ……」と呟いた。

(M) ……船が空に浮くなんて、その船に乗って天国に行ったなんて、信じる者はいないだろう……アルツハイマーのホームレスの婆さんの世迷い言と笑うに違いない。救急車が来て、警察が来て、身元不明の無縁仏として葬ったんだ、と言う人もいるだろう……。

M ()

(M) しかし誰がなんと言おうと、俺は、いや酒造さんも、信じていた。しーちゃんは船で旅立ったのだと……確かにしーちゃんには、俺たちの前から突然居なくなったのだから……

アルバムを開くと、最初のページに一枚の絵が貼り付けてあった。俺は息を飲んだ！しーちゃんが話してくれた、あの場面！夜の海、逆巻く波の上に浮く小舟が描かれ、天空からまばゆい一条の光が射している絵だ！それは、油絵の個展を報せるハガキのようだった……

(M) しーちゃんと初めて会ったあの日から、ちょうど、一ヶ月が経っていた……

END